

イーセップ(株)との連携を深め 「防爆型有機溶剤リサイクル装置」を 開発し、環境分野で新事業を 創出していきます

当社は昨年8月にナノセラミック分離膜技術を有するイーセップ株式会社と業務提携契約を交わしましたが、本年、6月27日に同社と新たに共同開発契約を締結しました。関係をより深め、環境関連のプロジェクトをより本格化させてまいります。

日東精工はサステナビリティ経営を推進し「環境問題」にも真摯に取り組んでいます。工場の屋根にソーラパネルを設置したり、化石燃料由来の電気エネルギー消費を減らしたり、リサイクル・リユースを徹底しゴミをゼロに近づけたり、あるいは地域の河川の清掃であったり、里山を間伐したり植樹したりモデルフォレスト運動……こういった比較的わかりやすいものはもちろんですが、そのほかにも「環境問題」にはさまざまなアプローチがあり、たとえば当社の高機能で付加価値の高い製品群は本来の機能に加えて、省エネルギー、省資源、省スペース、省コスト、軽量化といった点でも、環境負荷を減らすことに役立っています。

私どもの経営理念は「社会に貢献する」ことであり、これからもこれはずっと揺らぐことはありません。

そして中期経営計画「Mission G-second」では「環境」を重要な成長分野の一つとして位置づけしています。既に述べたように、当社ではさまざまな高付加価値製品の開発を通して、結果的に環境問題に貢献していますが、さらに踏み込んで〈環境にやさしい〉〈環境保全の役に立つ〉ことを前面に打ち出した技術や製品を開発していくことが、よりお客様ニーズにお応えすることになり、また世界的課題の解決にもつながる。そして新規顧客の獲得、さらには日東精工グループのブランド価値を高めていくことにつながるという考えに基づくものです。

その環境戦略の一環として、今般、「ナノセラミック分離膜技術」を有するベンチャー企業・イーセップ社と共同開発契約を締結し、有機溶剤リサイクル装置の開発をはじめとする環境ビジネスに本格的に着手することをプレスリリースしました。

イーセップ社の分離膜技術に、日東精工が、各種プラント設備や食品、薬品メーカーの製造設備で

長年培ってきた防爆技術、あるいは流量計の開発などで知見を重ねている流体制御技術などを組み合わせることで、これまでにない「防爆型有機溶剤リサイクル装置」を開発し新



本年6月27日に共同開発契約を締結しました。写真右がイーセップ(株)代表取締役社長澤村健一さん。左は当社代表取締役社長荒賀誠

事業を創出するものです。これまで有機溶剤を用いるリサイクル市場では大量のエネルギーを使用してCO₂を排出してきましたが、イーセップ社の分離膜を用いた分離方法に置きかえることで、リサイクル回収率を大幅に向上させ、CO₂の排出量も大幅に削減することができます（目標を50%削減に設定する画期的製品）。

イーセップ社とは昨年8月に業務提携契約を交わし準備を進めてきましたが、今般、新たに共同開発契約を締結し、総額2億円（出資金1億円・共同開発費1億円）を拠出。2025年3月を目標に開発を進め、同年4月に開催される「けいはんな万博2025」にもデモ展示をし、業界に旋風を巻き起こしていければと願っています。

■イーセップ社と共同開発の目的と事業展開

有機溶剤リサイクル分野の早期事業化 および分離膜生産体制の構築

- ①「防爆型有機溶剤リサイクル装置」の開発・製造・販売
- ②「シリカ分離膜管製造装置」の開発・量産体制支援
- ③「シリカ分離膜管」の製造・販売

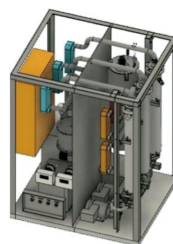
環境意識の高まりからイーセップ社が販売するシリカ分離膜管の需要が拡大しており、当社の生産技術力を用いて「シリカ分離膜製造装置」の拡大支援を行い、「シリカ分離膜管」の単品販売も視野に入れています

■期待される効果

お客様が、シリカ分離膜を利用（搭載）した有機溶剤リサイクル装置を用いることで、化学プラントのエネルギー消費が低減し、リサイクル時のCO₂削減に貢献。化学産業分野におけるCO₂排出量のうち、蒸留工程で約40%ものエネルギーを消費（経済産業省 化学課調べ）しており、本製品の実用化により50%削減を目指します。京都・綾部から世界へ、カーボン・ニュートラル社会の実現を支援してまいります

■市場規模

有機溶剤リサイクル装置の市場規模は、おおよそ25億円と試算（当社調べ）



EXHIBITION

Aichi Sky Expo、名古屋のふたつの大きな展示会で 日東精工の技術力を強くアピール！

Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で、7月に二つの展示会が開催されました。

一つめが7月4日から開催された「ロボットテクノロジー・ジャパン2024」（産業用ロボット・自動化システムの専門展）です。

当社ではねじ締めロボットなどを開発、製造販売し、また安川電機やユニバーサルロボット、ファナックなどのロボットメーカーとコラボした協働ロボットのユニットも販売しています。今回の展示会では当社販売店（株）東陽様ブース内で産機事業本部の自動ねじ締め機「FM514C」をテックマン社製協働ロボットに搭載したねじ締めシステムを出展。ねじ締め工程の人手不足解消を訴求しました。

二つめは7月17日から19



日まで同会場で開催された「人とするまのテクノロジー展2024」。こちらは自動車・部品・車体メーカーの設計・生産技術・

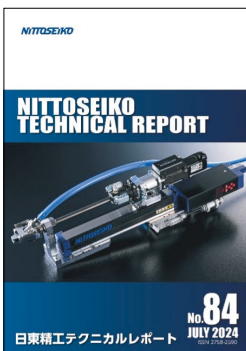


品質管理などに従事される方を対象にした展示会で、当社ではファスナー、産機、制御の3事業本部の製品はもちろん、グループ会社からも精密プレス部品、各種ナット・ドリルねじなどを出展し、日東精工グループの強みをアピールしました。

ファスナー事業本部では、用途別、素材別に様々なご要望に対応できる各種工業用ファスナーを展示。産機事業本部からは高精度ねじ浮き検出&コンタミ対策モデルの「ねじ締めロボット」（ねじロボ® SR580Y θ-Z）と、「推力はぼゼロ」のワークに優しい締結を実現した「単軸自動ねじ締め機」（参考出展）を展示。そして制御システム事業本部からは部品検査選別装置「ミストルAI」を出展し、日東精工のモノづくりソリューションを訴求しました

日東精工テクニカルレポート 最新号84号を刊行

当社では自社最新技術について、その開発背景や技術的な裏付けなどを掲載した冊子を毎年発行しており、バックナンバーの一部は国立国会図書館などでも閲覧できるようになっています。また2011年以降のものについては電子データ化をし、当社ホームページからもダウンロードできるようにしていますので、当社技術・製品への理解を深めていただく一助になればと思います。



7月に発行された最新84号ではクリンチングスタッドボルト「JOISTUD」シリーズの目的別機能製品の開発情報や、産機事業における機械設計業務の効率化とDXに向けた取組みの紹介、制御事業における新型スクリーポイントの開発、メディカル事業の医療機器包装用滅菌袋の評価方法などを掲載しています。



▲より詳しくはこちらから

『[実践]理念経営Labo』誌で 当社代表取締役会長が登場！

新たな理念経営のあり方を追求するPHP理念経営研究センターは、理念の実践を通じて人と組織の可能性を発見する電子季刊誌『[実践]理念経営Labo』を刊行しています。この2024年夏号（7-9月号）で、当社代表取締役会長の材木正己がインタビューを受け、当社の事業内容ならびに経営理念、そして当社独自の教育、資格制度などを4ページにわたってご紹介いただきました。『[実践]理念経営Labo』はPHPのホームページから無料で閲覧できます。



第11回きょうと健康づくり実践企業表彰で 当社が最優秀賞を受賞

このたび「第11回きょうと健康づくり実践企業認証制度」で、日東精工が最優秀賞を受賞しました。当社では創業当初より健康で働きやすい職場環境づくりに努めてまいりましたが、近年では従業員をはじめ事業に関わるすべての人が生き生きと元気に前向きに仕事に取り組んでいけるような様々な健康経営の取組みを推進しております。

京都府が進めるこの認証制度では、当社の取組みの以下3点、①『健康で幸せを感じる動きやすさの追求』を掲げ、健康づくりを実践する経営を推進している②『生活習慣病リスク低減のために多数の取組みを実践している』③『地域健康活動にも積極的に取り組んでいる』点を、高く評価をいただきました。



あやべ水無月まつりの 盛り上がり協力

7月27日に日東精工が本社をおく綾部市で「あやべ水無月まつり」が開催され、当社ではこのお祭りの花火大会をスポンサードするだけでなく、「あやべ良さ来い」（「よさこい」と「あやべ踊り」を融合した踊り）へも新入社員や海外技能実習生を中心にチームで参加しました。また、祭り翌日、早朝の河川清掃などにも多くの従業員がボランティア奉仕をしました。こういった地域行事に積極的に協力することで、いろいろな新しい交流、新しいつながりが生まれ、まちも人も元気になっていくことを願っています。



【誠の言霊^{ことば} 16】

理屈抜きに魅了する

代表取締役社長

荒賀 誠

い

ま、京都市京セラ美術館で「有道佐一回顧」展が開催されています（8月18日まで）。当社が本社をおく綾部の出身で、欧州留学中には現代アートの巨匠・ジャコメッティに見いだされ、マティスなどが参加する「サロン・デ・チュイルリー」に招待された。しかし帰国後は中央画壇からの誘いを断り名声を求めず、ふるさと綾部で好きな絵をただひたすらきわめようとした、ひと言でいえば「すごい画家」です。

有道佐一の絵は風景画でほんとうにわかりやすい作品です。しかし、葉っぱ1枚1枚を丁寧に点描で描いていく、その表現力に圧倒され、ど

んどんと引き込まれてしまいます。シンプルでわかりやすい、しかし、じつはとても奥が深いもの。生前に佐一が「私の絵は宗教だ」と語ったと『芸術新潮』で紹介されています。その言葉の真意がどこにあるかはわかりませんが、彼の絵のなかには確かに、あたかも神がいるような厳かさ、そして静謐があります。

いいものはシンプルでわかりやすい。そして理屈抜きに人を圧倒し、魅了する、それでいてどこか安心感も得られます。当社事業も製品も、他を圧倒しつつも、わかりやすく、皆様に安心をお届けするものでありたいと願っています。

「幸せ」を見つけるヒント ——— 8月

ないものねだりからの脱却

かつて鳥取県が「スタバはないけどスナバはある」というやや自虐的な観光コピーをつくって話題になったことがあります。実際、鳥取にはすなば珈琲という店があり、またなんといっても砂場（砂丘）は大きな観光資産です。あれがない、これがないとネガティブになるのではなく、自分たちにはこれがあるというプラス志向がいいですね。

当社が本社をおく綾部市も人口わずか3万少しの小さな都市で、大都市と比べると、ないものも確かにたくさんあります。いわゆる四年制の大学がない

ので、若者の多くが高校を卒業すると、進学などでいったん、綾部から外へ出てしまいます。

しかし、東京の国立市と二拠点居住している方に話を聞くと、国立は一橋大学がある文教都市としてそれなりに人気のまちですが、新聞社もコミュニティラジオ局も、それから警察署や消防署の本部もないそう。駅前にホテルもなければ料理旅館もありません。でも、これらは綾部市にはしっかりあります。そしてなんといっても、あやべに本社や本店、工場をおく上場プライム企業が複数あり地域雇用を支えている。ふるさとに戻ってきたいと思えるまち、そしてその受け皿があるまち、それがあやべです。

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己

